

令和4年度事業報告書 <白楽荘・医務室>

**テーマ：非常災害（感染症・自然）の避難計画に基づき、安全・安心あるサービスの提供と
人材の確保に努める**

～安心して働ける職場として利用者・職員双方への優しいケアの実現～

サブテーマ：職場環境改善に努め、多職種との連携・協働により安全で安心できる看護を提供する。

1. 安全で安心した生活を送れるよう健康管理を行う

- ①11月のコロナ発生対応時にも必要な看護を継続し行う。結果、新型コロナの白楽荘BCPマニュアルとして、研修やシミュレーション計画の作成に繋がった。
- ②各事業所でコロナ陽性者の発生と共に、早急に感染委員会を開催し結果報告として、ラインワークスにて全職員に直ぐに発信し、注意喚起と情報の共有を図った。多職種でケアの統一を図り、安全・安心な看護を提供することができた。
- ③利用者の状態変化時は、早い段階で家族に連絡・病状説明を行い、意向に沿った対応ができた。

2. 個別機能訓練により、ADLやQOL向上に努める

- ①コロナ感染対応により個別の関わりが制限される中、多職種連携によりアセスメントの見直しができる。
- ②多職種で情報共有し関わりを深め、個別性のある目標や訓練内容を設定することができた。

3. 働きやすく、魅力ある職場作り

- ①普段からコミュニケーションに努め、感謝や労いの声掛け、相談とアドバイスはチーム力向上に繋がった。
- ②コロナ感染発症の、ゾーニングチームは職員同士の接触を最小限にと指導があり、担当フロアが固定され、毎日の情報の伝達・共有が難しく、ゾーニングチームの詳細な情報まで、把握することは難しかった。

4. 看取りケアの充実

- ①多職種連携により、その人らしい安らかな最期を迎えるように支援するため、入院者が病院の面会ができず、看取りとして退院して、馴染みのチームで家族と共に（10名）看取りを行う。
- ②コロナによる面会制限の中、17人の看取りは加算外として、状況や日々の変化などを家族に伝え、意向を確認するとともに、利用者・家族の思いを尊重し安心できるよう声掛けを行った。